

法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

横浜における関東大震災時朝鮮人虐殺

著者	山本 すみ子
出版者	法政大学大原社会問題研究所
雑誌名	大原社会問題研究所雑誌
巻	668
ページ	38-56
発行年	2014-06-25
URL	http://hdl.handle.net/10114/9492

横浜における 関東大震災時朝鮮人虐殺

山本 すみ子

はじめに

- 1 流言の発生と拡大…「朝鮮人が襲撃してくる」
- 2 「不逞鮮人」は「パルチザン」だ
- 3 虐殺は、警官が組織した
- 4 流言と軍隊の虐殺
- 5 自警団による虐殺
- 6 虚偽の事実が公のルートで全国へ
- 7 戒厳令発布
- 8 隠蔽された虐殺
- 9 慰霊はどのようにおこなわれたか

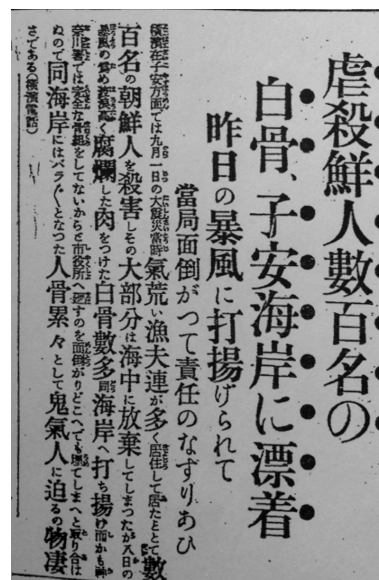
終わりに

はじめに

関東大震災時の朝鮮人虐殺から半年後の1924年2月10日の「やまと新聞」に、次のような記事を見つけました。「虐殺鮮人数百名の白骨、子安海岸に漂着」と言うショッキングな見出しで始まる記事は、半年前の関東大震災時、朝鮮人を虐殺し海に放棄した遺体が、暴風により子安の海岸にたどり着いたということです。それだけではなく、この地域を管轄している神奈川警察署は、虐殺遺体の処理を何もせずそのまま放置したと言う事です。神奈川警察署は、横浜にある警察署の中で唯一震災の被害を免れた警察署であり、朝鮮人虐殺が激しかった所でもあります。

この記事を見て、まず数百と言う数に愕然とし、また、神奈川警察署が遺骸にまで冒涇した行為に怒りを覚えました。

当時2月8、9日と暴風雨がきて、市電が止まるほどの激



「やまと新聞」1924.2.10

しい風が吹いたようです。暴風による海流の動きから察すると、横浜港の方からながれてきたのではないかと考えられます。震災後権力の弾圧にも屈せず調査した「在日本関東地方罹災朝鮮同胞慰問班」の調査では、子安から横浜にかけて多くの朝鮮人が虐殺されています。しかし今もその実態が明らかになってはいません。神奈川鉄橋で500人、子安から神奈川停車場まで150人、新子安町で10人、神奈川警察署で3人、御殿町付近（神奈川警察署がある所）で40人、浅野造船所で48人も朝鮮人が虐殺されたと言われています。それ以外の地域にも虐殺証言はいくつもあります。

私は、このような多くの人間を虐殺するには、それなりの武器が必要、それ故軍隊の関与があったのではないかと考えていました。それは、今も変わりはありません。

また同時に、遺体はどうしたのか疑問に思っていました。

証言の中に、「横浜駅に朝鮮人虐殺遺体の傍で列車を待つ」とか「家の傍の遺体が1ヶ月放っておかれて臭かった」「川に流れてきた遺体が臭かった」などありましたがどこにどのように葬られたのか調べて見ました。朝鮮人の被殺者埋葬地として、「三ツ沢墓地に200名（神奈川付近の被殺者）久保山火葬場に千余体」（吉野作造）となっていますが、三ツ沢については、証言がありますが久保山については、横浜市は「当時の資料は既に処分」してしまったし、証言も見つからず分かりません。

横浜の中心部では、川に放棄している証言が多く見られますが、この神奈川辺りの証言は、ほとんどありません。子安海岸に虐殺白骨がたどり着いたという事ならば、川や海に大量に投げ捨てたとか考えられません。

やはり想像していたとおりでした。それを裏付ける証言もいくつか見つかりました。

その頃、遠い親戚にあたる海軍の軍人から、横浜が大変という話を聞いたことがあります。横須賀から横浜に来てみたら、あの辺の東京湾には殺された朝鮮人の死骸が沢山浮かんでいて、死骸の上を歩いて渡れるくらい多くの朝鮮人が殺されていたと言う話でした。（大内力「埋火」）

海軍の軍人がハッキリと朝鮮人の死骸と言っているのです。虐殺された死骸は一目で分かったそうです。何とも言いようのない光景が目には浮かびます。

昨今、教科書や副読本から「朝鮮人虐殺」が消えようとしています。また、「虐殺」という言葉は、教育の現場にふさわしくないと言って、変えられようとしています。当時も事実を隠蔽し、歴史を捏造してきましたが、またその上をいく捏造をしようとしています。

また、街の中で「殺せ」「出て行け」などが日韓国・朝鮮人にたいするヘイトスピーチが声高に煽るような排外主義には、闘っていかねばと思うほどの時代の危機感を感じます。このような時だからこそ、横浜の虐殺事実を究明し、伝え、虐殺された朝鮮人の追悼をしようと強く思った人間が集まりました。偶然にも2012年の9月1日に横浜久保山の「殉難朝鮮人慰霊之碑」の前で出会ったのです。そして私たちは、2013年1月に「関東大震災時朝鮮人虐殺90年神奈川実行委員会」をたちあげ、その活動に取り組みを始めました。

以下この会で学んできた「横浜の朝鮮人虐殺」の一部です。

1 流言の発生と拡大…「朝鮮人が襲撃してくる」

横浜での流言は、警察資料によると9月1日にすでに発生しています。山手本町警察署管内で「午後7時頃鮮人200名襲来し、放火、強姦、井水に投毒の虞ありとの浮説壽警察署管内中村町及び根岸町相澤山方面より伝はるとて、部民の一部は武器を携帯し、警戒に着手し、該浮説は漸次山手町及根岸櫻道方面に進行伝播せり」（「大正大震災災誌」 神奈川県警察部）とあります。また、鶴見方面では浅野中学校から「三八式歩兵銃五十挺あり。九月一日朝鮮人襲来の噂ありし際、同地青年会員に氏名を控えて貸与せる」（「横浜市震災誌」）と、流言が伝わるとすぐ武器の調達にはしている様子がうかがえます。

流言は早鐘のように各地に伝わり、流言に対してあらゆる武器を携えた自警団が組織され、警察と一緒に朝鮮人虐殺に走っていきます。

現在の横浜駅の西側に高島山と呼ばれている丘があります。当時ここに避難してきた人たちが大勢居ます。その避難所に警官が来て避難民に呼びかけます。

9月2日（避難地 高嶋山デノ体験）

（略）コノ日午後吾々ガ陣取ッテイル草原へ巡查ガ駈ッテ来テ皆サン一寸御注意ヲ申マス、今夜此方面へ不逞鮮人ガ三百名襲来スルコトニナッテ居ルサウデアル 又根岸刑務所ノ囚人一千余名ヲ開倣シタコレ等ガ社会主義者ト結託シテ放火強奪強姦井水ニ投毒等ヲスル。（略）十六歳以上六十歳以下ノ男子ハ武装シテ警戒ヲシテ下サイ。（略）午後四時過ギ向フノ山上デ喚声ガ起ッタ 一同ガ振り向ヒテ見ルト白服ヲ着タ者ガ幾十人カ抜剣シテ澤山ナ人ヲ追カケテキル 基ヲ見タ者ハ異口同音ニ不逞鮮人襲来ダ白服ノハ日本ノ青年団ダト騒グ（略）各町ノ青年団衛生組合ノ人々ガ腕ニ赤布ヲ巻キ向フ鉢巻腰ニ傳家ノ寶刀ヲ佩ビ或ハ竹槍ピストル獵銃其他鉄ノ棒ナド持ッテ避難地草原ヘ集合シタ。（略）

夜ノ十時過頃カラ各方面デ銃声ト喚声ガ聞ヘ始メ提灯ノ火ガ幾ツトナク野原ヲ飛ンデキル。折々武装シタ青年ノ傳令ガ駈ッテ来テ「御注意ヲ願ヒマス只今怪シイモノガ数十名此方面ヘ這入ッタ形跡ガアリマス」等ト入替リ立替リ報告シテ来ル。此夜鮮人十七八名反町遊郭ノ裏デ惨殺サレタ。（八木熊次郎「関東大震災日記」 横浜開港資料館保管）

警官が自警団を組織する様子がよく分かります。また、伝令を組織し状況報告までする様子は、戦場さながらです。

同じ所に避難していた黒河内巖は、「鮮人と見たら皆 打殺せと極端なる達しあり 依て鮮人と邦人と間違ひなぐり合等にて混雑せり」（「黒河内巖日記」 横浜開港資料館所蔵）と言っています。

遊廓の裏で虐殺された朝鮮人は、きっとここに追い込まれたのではないかと思います。そこは後ろが高いがけになっていて、追い詰められたら逃げ場がありません。この地域に住んでいた朝鮮人なのか、それとも路上で誰何された朝鮮人なのか。この近辺は、朝鮮人、中国人が川沿いや鉄道沿いに住んでいた地域です。その人たちなのでしょうか。この地域に、県工業高校があり、60余人が寮生活をしていました。その寮生達は、「不逞鮮人襲来の報一度伝はるや直ちに武装して徹

宵校舎内外の警備に寝食を忘れて尽くした」（高橋 暢・神奈川県立工業高校校長「震災記念号」）高校生も武装して戦う構えをした様子がうかがえます。高校には、銃があるので軍隊と同じ武装です。ここでは「朝鮮人は敵です。」ここに避難してきた地域住民の敵として自警団は組織されていきます。敵だから殺していいのです。いや、殺さなければ殺されるのです。ここには戦場の論理しかないと思います。

この高島山は、7日に戒厳令による神奈川警備隊司令部が移転してきました。そして近くに憲兵隊本部や在郷軍人会の本部も置かれました。何よりここは横浜が見渡せる所なのです。明治時代に高島嘉右衛門は、この高島山から横浜港の埋立や鉄道工事の指揮を執ったと言われている所なのです。眼下に神奈川鉄橋（500人虐殺）があります。

2 「不逞鮮人」は「パルチザン」だ

2日23時30分頃、海軍陸戦隊が横須賀からやって来ます。八幡橋から上陸し各警察署と一緒に市内を偵察します。その時の状況を、横須賀鎮守府司令長官野間口兼雄から海軍大臣財部彪に以下のような報告を3日にしています。

陸戦隊報告

午後11時半磯子根岸間ノ八幡橋ニ上陸ス

代表者ノ談ニヨレハ市民ノ大部分ハ根岸及磯子付近ニ避難セル由 2,300名ノ不逞鮮人附近ノ山地ニ潜伏時々部落ニ出入被害甚シ市民ハ之ヲパルチザント称シ恐怖甚シキ模様ナリ依ツテ本隊ハ先ツ市民に安心セシムル必要ヲ認メ避難民ノ多キ地方及被害大ナル地方ヲ喇叭ヲ吹キツツ行軍ス市民歓呼シテ喜ブヲ見レハ余程不安ニ襲ハレ居リシモノト認ム避難民ノ数5, 6万人官憲ノ保護トシテ巡査2, 3名ニ過キス主トシテ在郷軍人青年団等警戒ニ任ス 尚流言ニ依レハ程ヶ谷附近ニ於テ悪化セル鉄道工夫鮮人二百名ハ在郷軍人ニ追ハレテ磯子方面ニ潜伏スト又噂ニヨレハ不逞鮮人本部ハ東神奈川ニ在ルモノノ如ク 時々2,300名一隊ヲナシテ襲フト

ここで、重要な事を言っています。まず、第一に「不逞鮮人」を「パルチザン」と市民は呼んでいると言うこと、第二は不逞鮮人本部が東神奈川に在るということです。

第一のパルチザンについてです。「襲撃してくる朝鮮人」をパルチザンと言って恐怖しているといっています。市民の証言の中には殆ど出てきません。シベリア出兵で「パルチザン」に恐怖を感じ住民を虐殺し、村を焼き払った体験がよみがえって来るのは軍隊でしょう。日本軍の行動を想起したのは、詳しく知っている人間でしょう。

当時の日本人は、おそらく尼港事件を通してパルチザンを知った人が多いと思います。しかし、尼港に何故日本軍が駐留していたのか、シベリア出兵と関係があるのか、知るすべはなかったでしょう。当時の新聞の見出しなど見ると「凶悪言語に絶する尼港の過激派」（大阪朝日新聞）「パルチザン」であり、「怖い」「憎い」存在として意識づけられていったようです。軍隊や警察が朝鮮人をパルチザンと言えば、日本の植民地支配に独立運動を組織して戦う朝鮮人、それは戦う相手、敵で

あり、抹殺しなければならない対象であることを示しているのです。不逞鮮人はパルチザンだと警察、軍隊が言えば「世は真に戦国時代」（高橋 暢・県立工業高校校長）になるのです。

不逞鮮人の本部があると言われた東神奈川の虐殺を見てみましょう。非常に多くの朝鮮人が虐殺されたにもかかわらず、90年経った現在でも分からないことばかりです。権力も民衆も含めて虐殺をいかに隠蔽したのか解明されなければなりません。分からないながらもその中の一つ浅野造船所の虐殺について見てみます。「在日本関東地方罹災朝鮮同胞慰問班」の調査では、48名、新聞報道では、50余名、又は80名となっています。橋本町付近（浅野造船所があるところ）で埋立ての作業をしていた朝鮮人は、100余名いたようです。

一緒に作業をしていた責任者斎藤新次の証言が「横浜市震災誌」に残されています。

その次の日の出来事でした。（9月2日です）何せあの大量の朝鮮人騒ぎ、「そんな馬鹿な」とは思ひ乍も、矢張り尠からず恐怖に襲はれて居りました。放火・強盗・毒薬・追ふ人・追はれる人、正に劒戟の巷です。ふと自分達の使つて居た忠實な鮮人達に思ひ及んだ私は、或る不吉な豫想に、思はずぞつとしてしまひました。

「何」つていふ目的ではなかつた様です。慌しく行き交ふ人々の間を、山の内町へと出かけた私は、豫め豫期した恐ろしい幾多の事件に打つ突かりました。恐る可き人間の残忍性、それは遂に尼港の露助も此處のこのジャップも共通でした。（斎藤新次「横浜市震災誌」）

雑夫一夜に全滅
掠奪を恣にした
神奈川警察署の管内

震災で横濱では神奈川警察署だけが唯一つ辛うじて焼け残ったが其の管内の混雑は悲絶を極め二日朝から伝へられた流言で自警団の不統一は言語に絶し日中は横濱倉庫や各商店の掠奪を恣にし、夜は通行の労働者等を惨殺し2、3、4、の三日間に50余名を惨殺し死体は鉄道線路並に其の付近に遺棄されてあった、殊に神奈川方面の某会社の雑役夫80余名の如きは殆んど一夜に全滅するの惨状を呈した。（大阪朝日新聞（見出しなし）1923.10.18 山陽新聞1923.10.19）

一夜で80余名 神奈川で殺さる
鶴見では警察襲い 33名負傷さす

…神奈川の某会社の〇〇〇〇80余名は無残一夜で全滅した。（読売新聞 1923.10.21）

横濱浅野埋立地で 五十余名殺害

…団体的に殺されたのは浅野埋立地の五十余名である。（福岡日日新聞 1923.10.22）

ここで働いていた朝鮮人のように団体で虐殺されたのは、そこに朝鮮人がいるということを知っているからです。浅野造船所の埋立ての作業をしているのは、朝鮮人だということを知っていて狙い撃ちしたのです。それを知っているのは誰でしょうか。一番よく知っているのは警察です。特に神

奈川警察は、この年の7月1日に特別高等課を設置したので尚更です。

神奈川警察署の隣の戸部警察署は、2日朝、流言が伝わると直ちに朝鮮人が働いている作業所や企業、飯場を偵察に出かけています。鉄道工業株式会社保土ヶ谷元町作業所（朝鮮人70名）浅野セメント株式会社保土ヶ谷採掘工事場（13名）富士瓦斯紡績株式会社程ヶ谷工場（18名）帷子小学校埋立工事（9名）小峰小学校前の大工小屋に避難した朝鮮人（10名）もう既に自警団の襲撃に曝されているところもあったようです。このように朝鮮人は治安の対象として常に監視されているのです。流言があったから偵察に回ったのではなく、常日頃朝鮮人に対しては、目を光らせているのです。以下の報道はそのことを物語っています。

鮮人町に 宣伝演説 鮮人女工の餓死を訴ふ

潮田町潮田2055朝鮮人土工朴洞源外5軒で鮮人約80余名が合宿し近所ではこの一団を鮮人町と称して居る 此所へ26日午前八時頃東京に本部がある朝鮮労働総同盟から代表者2名が突然来訪して『鮮人のゴム女工の餓死に関し諸君の同情を求む』云々と…宣伝ビラを配布するとともに悲愴の宣伝演説を開始せん…巡回中の鶴見警察署員に発見…鶴見警察より稲垣高等係を初め朝倉警部補以下数名が警戒（横浜貿易新報 1923.7.23）

朝鮮人が働いているところを目がけて行き虐殺している。浅野造船所の虐殺は、まさにその通りです。「朝鮮人は殺せ」という指示以外に考えられません。

神奈川で何と言っても500人も虐殺された神奈川鉄橋の虐殺証言は、殆ど見つかっていません。

「横浜市史」にも「鉄道橋における500人の殺害は軍隊が配置されていた拠点であり、組織的殺害をうかがわせる」（「横浜市史」関東大震災と復興事業）と書かれています。

新子安から神奈川停車場まで150人と言うのは幾つか証言があります。虐殺遺体を線路に放置したとか、子安を過ぎて生麦だが「路傍に惨殺された死体五六を見た。余り残酷なる殺害方法なので筆にするのも嫌だ。」（長岡熊雄「横浜地方裁判所震災略記」）虐殺のひどさ、残虐さが読み取れます。

横浜市内の残虐は別項の通りだが更に子安の自警団員の多くは日本刀を帯びて自動車を走らせ「〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇」と触れ回った、生麦までこれが傳はり二日から四日まで50余の鮮人は死体となって鉄道線路に遺棄された、これを手初めに或ひは火中に投げ込まれたのも多数で、…（読売新聞 1923.10.21）

「いたる所でこれらの自警団に殺された不逞の徒の話聞いた。軍隊や警察に捕らえられた者も多かった。横浜の帰りに子安付近で軍用電話を切断せんとして捕らえられた2人の不逞の徒が殺気立った群衆の手で手足を縛られた上、燃え盛る石炭の中に生きながら葬られたのを見た。」（桑名三重彦「九月一日・この日を思え」）

滝の川が東海道を横切るあたりでは、不審訊問にかかった朝鮮の人々が後手に縛られ、頸に縄をつけられ放り出されて、橋（二つ谷橋）の欄干に宙づりにされていたそうだ。虐殺されたのは20人位だそうだ。…（兄が三田の慶応からの帰り目撃した。角田三郎談）

大正12年9月の関東大震災、そのとき私は横浜の旧制中学1年生だった。父は済生会病院に勤めていた医師で、私には母と東京女高師に通う姉がいた。兄と弟は病死していたが私はあの震災で肉親のすべてを喪った。

東神奈川の自宅から父の病院まで父をさがしに行く途中、がれきのなかからはい上り、横たわったまま私の足をつかんで水をくれという青年がいた。私は、水をお碗に入れて彼に飲ませた。すると、その青年は、私は上海から来ている留学生のワン…とか言った。王さんという名前はそのときにはっきりと聞こえた。

そのとき、私は後ろからいきなり頭を棒で2～3回殴られた。そして、おまえはなぜ中国人を助けるのか、と5～6人の若者に取り囲まれた。私の目の前で、その青年を棒で殴りつけた。それだけではない。職工さんのもっている道具でその青年の腹を…。人間とは思えない光景を見た。(保阪正康 月刊「現代」周恩来の「遺訓」 詳しくは「風来記」『わが昭和史1』)

角田さんの証言と保阪さんの証言は、場所が大変近いところです。東神奈川駅近くです。この駅の周辺では、多くの中国人が虐殺されています。新子安の証言は、冒頭の「虐殺鮮人白骨」がたどり着いた子安海岸の近くです。子安に住んでいた中国人も虐殺されています。子安市場で傘屋を営んでいた人など、子安市場で殺されています。

神奈川警察署は横浜7警察ある中で唯一焼けなかった警察署です。当時神奈川県警の治安の実質的責任者であった西坂勝人は、「部内の火災の被害少なかったのに反し、…鮮人騒ぎ等が猛烈であったため、署長以下署員の苦心と努力は焼失地帯のそれに何等変わりはなかった。」と言い放っています。警察自らが流言を拡大し、自警団を組織し朝鮮人虐殺の先頭に立ったのが苦心と努力なのでしょう。

神奈川方面に不逞鮮人の本部があると言うのは、朝鮮人が多く住んでいたからなのでしょう。本部があるから、先ずたたきつぶそうとしたとも考えられます。

神奈川警察署管内ではありませんが、神奈川の虐殺地帯から続いている横浜駅の虐殺証言を見ましょう。

2日東京に歩いて行くことになった福鎌恒子さんは、横浜駅（当時の横浜駅は、現在の横浜駅より約1キロ桜木町よりにあった）の近くで朝鮮人が虐殺されるのを目撃します。

「駅に着く駅の右方がガードを越えし處にて黒山の如き群集あり 何ときけば××××を銃剣にて刺殺しつつあるなり 頭部と言はず、滅多切にして溝中になげこむ惨虐目もあてられず、殺気満々たる気分の中にありて おそろしきとも覚えず二人まで見たれ共おもひおもひ返して神奈川へいそぐ、…」(福鎌恒子「横浜地方裁判所震災略記」)

当時の横浜駅は現在横浜市営地下鉄「高島町」駅の直ぐ傍です。横浜駅についた時間は書いてありませんが、東神奈川には3時に着いたとあります。だから2時前後と考えられます。また、この記録は9月2日の出来事です。

この状況から見ると銃剣で朝鮮人を刺し殺しているのは誰なのか、在郷軍人か、警察か。それを

取り囲んでいる群集は、福鎌さんのような偶然通りかかった者なのか、それとも武器を以て朝鮮人狩りをしたり、通過する人を誰何していた者なのか。なぜか、騒然と入り乱れた感じがしない息が詰まる雰囲気を感じる風景です。「朝鮮人なら殺して当然」という雰囲気を感じます。

駅の近く高島町では、同じ日に中国人が12人虐殺されています。その殆どは高島町在住です。虐殺したのは警官と労働者です。住んでいる所に狙い撃ちをかけたのでしょうか。中国人虐殺も警官が先頭切っています。

3 虐殺は、警官が組織した

既に警察が朝鮮人虐殺の先頭に立って居たことは見てきましたが、虐殺された中国人の記録でも明らかです。当時神奈川県警の高等課長の西坂勝人は、震災48年後に次のような事を語っています。

あの当時でさえ分からなかった（デマの発生について）のですから、今になって調べて見ても分からないでしょうね。要するに、あの頃は「不逞鮮人」と言う言い方をされていましてね。共産主義者のことですね。私は福島県で経験していましたから分かっていますが「不逞鮮人」というのは共産主義を主張とし行動する朝鮮人をそのように呼称していたのであります。

なかでも過激な主張や行動をするものには尾行をつけたこともあります。

それらが、朝鮮人で横浜にいたものが、多少乱暴する傾向があったので、こういう混乱時にはまず「不逞鮮人」が危ないという考えを、誰かが言い出したのが、朝鮮人襲撃の発端だったのだらうと思います。（「神奈川県史研究」1971年11月）

朝鮮人虐殺の下手人は、警察権力そのものです。「不逞鮮人」＝「共産主義者」＝「パルチザン」というのが彼らの思考でしょう。

①官憲の指示があった

日時	氏 名	場 所	伝聞内容・（出典）
9／2	長岡熊雄 部長判事	横浜桜木 町付近	警察部長から〈鮮人〉と見れば殺害しても差し支えないという通達が出て居ると（横浜地方裁判所震災略記）
9／2	小野房子 判事夫人	横浜	鮮人が300人ほど火をつけに本牧へやって来たそうだから、もの言って返事をしない者は鮮人とみなして殺してよいとの達しがあった（同上）
9／3	石坂修一 判事	横浜 藤棚	（藤棚の従弟夫婦の家）鮮人と見れば直に殺してよしといふ布令が出たりと、余は当然之を否定する気持ちもなく又肯定する気持ちもなく（同上）
9／	風説	横浜	市内の風説によれば、震災の際警察署より「鮮人殺害差支なし」との布告を発したりと。（横浜市震災誌）

9 /	壽警察署 長	横浜	本件の根拠不明なるも、巡査などが、朝鮮人放火等の風評を聞き「朝鮮人は殺してもよい」位の事をいひたるに起因するものならんか（同上）
9 / 2	黒河内巖	横浜 高島山	朝家族を引き纏め高島山に避難し露営せり。同夜は朝鮮人が飲用水井戸へ毒を打ち込みたりとて、鮮人と見たら皆、打ち殺せと極端なる達しあり、依て鮮人と間違ひなぐり合等にて混雑せり。（黒河内巖日記 横浜開港資料館所蔵）

②警察の中で虐殺された朝鮮人を見たと言う証言

東の空がだんだん白らんで来る頃、私は松山へ行こうと思って足をはやめた。壽警察の前を通りこそうと思うと、門内から生む生むとうめき声が聞こえて来た。私は物ずきにも、昨夜の事などけろりとわすれて、門の中へはいった。うむうむとうなっているのは、五六人の人が木にゆわかれ、かおなぞめちゃくちゃで、目も口もなく、ただ胸のあたりがびくびくと動いているだけであった。（壽小榊原八重子）

・裁判の公判で、警察で虐殺したのを見た。

（壽警察署） 山口正憲一派17名 掠奪事件の公判証人調べ中。証人総数11名
被告人に不利な発言をした警察官にたいして、腹立たしくなった被告人たちが「壽署の警官が署内で多数の鮮人を殺したのを実見した 当時の警察官は血迷ふて居た」と証言巡査に喰ってかかっていた。（「横浜貿易新報」1924.6.25）

壽警察の子どもの目撃したことと裁判の公判の事実と重なるのかどうか分かりませんが、警官や警察が虐殺に何かしら関わったことは想像出来ます。

4 流言と軍隊の虐殺

戒厳司令部の「震災警備の為兵器を使用する事件調査票」によると、軍隊が朝鮮人を虐殺した事実が記録されています。東京の亀戸や大島や永代橋等朝鮮人、中国人、社会主義者を、千葉の南行徳で朝鮮人を虐殺したことが記録されていますが、これは全部網羅されているわけではありません。この調査票には、横浜、神奈川は、1件もありません。多くの地域では、証言、聞き取り、個人の日記、回想録、体験談などを通して明らかにしていますが、横浜では、聞き取りなどの作業が出来てなく、回想録や新聞記事でしか分かりません。

神奈川に軍隊が入って来たのは、9月2日夜、海軍次官の伝令を受け、横須賀の鎮守府司令官は、海軍の駆逐艦2隻を横浜に派遣し、陸戦隊が上陸して来ます。その後も陸戦隊が横浜に上陸します。習志野からの騎兵15連隊（250名の精鋭）が3日午後2時40分陸路で到着します。それより前3日11時歩兵第一連隊（110名）が駆逐艦で横浜へ上陸、4日朝神奈川警備司令官奥平少将が歩兵第五十七連隊（630名）等を率いて横浜に到着し、戒厳令を伝えました。

「大阪時事新報」特派記者監澤元治は、大阪から列車と船を乗り継ぎ、横浜から徒歩で東京に取

材に行った体験を記事に書きました。

（横浜の海岸に上陸）岸に上がると十七八名の国粋会員が長刀を突付けた。「もう殺されるのだ」と覚悟を極め荷物を捨て手を上げた。「貴様は日本人か」と云う「日本人である」と答へると「大阪から来たなら社会主義者ではないか」…「こんな戦場に飛び込んでくる奴があるか」1丁ほど進むと道端には 見るもむごたらしい死様をした死骸が五つ六つごろごろ転がっている。…陸戦隊は右往左往して秩序維持に努め三日夜までに既に六百人の〇〇を〇〇し〇〇〇〇〇〇もドンドンされた、言葉付きや顔が似たという許りで〇〇された者も大分多い…横浜を1町毎に誰何されつつ東海道にでた記者は徒歩で東京に行くことに決心し騎馬兵が駆け散らして行く街路を1歩宛進んだ 警戒が厳重で道路1町毎に青年団消防隊国粋会員などが長刀短銃と槍を掲げて関所を設けて居る 東神奈川に着くと三名の〇〇が騎兵隊に追いまくられて道路に飛び出したので忽ち〇されてしまった。…（「大阪時事新報」1923.9.6 監澤元治記）

大阪を出発した監澤は列車で沼津まで来て、清水港より商船アラスカ丸に乗船します。3日午前9時頃に横浜港に到着するも下船許可が下りず船内に留まっていたが、「死んでもいい」と船長に迫り、3日午後6時ランチで港に着き上陸をします。港付近では、朝鮮人が虐殺され死体がゴロゴロしていること、朝鮮人狩りをしている人は、国粋会の会員であること、神奈川の方へ行ったら騎兵隊が朝鮮人を虐殺していることが詳しく分かります。特に徹底した誰何の厳しい様子が分かります。1町ごととは、約100メートルおき位に誰何されたので、品川まで300回程取調を受けたようです。

3日夕方は、騎兵隊も横浜に来ていたし、陸戦隊も上陸していました。2日夜上陸した陸戦隊の部隊は、3日朝帰りますが、他の部隊が上陸しています。横浜に来た騎兵隊は、習志野の騎兵15連隊です。東京に出動する予定だったのでしょうか、東京に到着すると休憩もそこそこにして横浜に向けて出発しています。当時騎兵隊の兵士であった越中谷利一は、「僕がいた習志野騎兵連隊が出動したのは、9月2日の時刻にして正午少し前頃であったろうか、とにかく恐ろしく急であった。人馬の戦時武装を整えて営門に整列するまでに所要時間僅かに30分しか与えられなかった。二日分の糧食及び馬糧予備蹄鉄まで携行、実弾は60発。将校は自宅から取り寄せた真刀で指揮号令したのであるから、さながら戦争気分…」このように記録しています。戦場に出動する準備と変わらない準備で、敵は朝鮮人と意識して出動した様子がよく分かります。司法省に調査では、千葉の殺害事件のうち9件中5件が騎兵15連隊がやっています。その騎兵15連隊が横浜東神奈川で朝鮮人を虐殺しているのです。

横浜は多くの中国人も虐殺されました。当時中国人の虐殺については、中国政府が帰国者から聞き取りを行い、調査団を日本に派遣して調査を行っています。日中間の外交問題にもなり、日本に抗議しています。それ故、氏名は勿論、年齢、出身地、現住所、被害場所、被害日時、加害者、武器、様子など詳しく記録されています。その中に「理由」があります。「誤認」と記録されています。中国人は84人虐殺され、怪我、行方不明を入れると108人になります。虐殺は、9月2日、3日に集中しています。

加害者は「警察、労働者」が多いが、「軍警、海軍水兵、陸軍」というのもあり、軍隊が虐殺に
関与していることは明かです。

[illegible]

注) 加害者：「警察、日本人労働者、海軍水手」が見える。（「日本震災惨殺華僑案（抄档）」）

流言蜚語がいち早く流され横浜、神奈川県において自警団の組織化は早かったです。横浜においては「在郷軍人、青年団、消防団が連携し、9月2日正午には早くも町内単位の自警団が組織され警戒にあたり」（「神奈川県警察史」）震災時の治安維持の中心を担ったと言います。神奈川で661、横浜で130もの自警団が組織されました。

自警団の中心は何と言っても在郷軍人会です。この在郷軍人たちは、日清、日露、3.1 独立運動の弾圧に、朝鮮において朝鮮人を虐殺した軍人たちです。在郷軍人は県外からも動員され（840 人）帝国在郷軍人会は、青木山に本部を設け、軍隊と警察と連絡を取りながら各地の自警団を指揮していたのです。

自警団は、竹槍、やり、鳶口、短銃、銃剣、空気銃、日本刀、長刀、短刀、等あらゆる武器で武装しました。また、中高等学校等にある銃で武装して朝鮮人虐殺にはした所もあります。横浜商業高校には、920挺もの銃がありましたが「九月一日格納庫倒壊し、朝鮮人襲来の噂ありしを、群集は格納庫に闖入し全部持ち去りたり」。本牧中学も「三八歩兵銃百丁の備付けあり。九月一日震災当時朝鮮人の襲来の噂ありしたため、同地青年団在郷軍人会より自衛の武器として貸与方を申し込まれ、学校当局は貸与者の住所を控えて貸与せしが、九月十七日返戻す可き旨の掲示を出し回収中なり。」（「横浜市震災誌」）また、鶴見の浅野中学では「三八歩兵銃五十挺あり。九月一日朝鮮人襲来の噂ありし際同地青年会員に氏名を控えて貸与せる外異状なし」。（「横浜市震災誌」）と焼けなかった学校の銃は自警団の武器になり、朝鮮人に銃口を向けました。が学校の訓練用の銃には実弾が装填されていません。どうしたのでしょうか。「高津村郵便局長にして在郷軍人会会長予備陸軍歩兵少佐森岡某は…事既に切迫したりと断じ自ら近衛歩兵第一連隊に使用して軍銃30挺実弾六百発の貸与を受けて帰村し在郷軍人消防夫等を激励し配備…」（「震災後に於ける刑事事犯及之に関連する事項調査書」〔秘〕）というように軍隊と在郷軍人会は、つながっていると言う事が分かります。

①証言に見る警察による自警団の組織化

9月2日

午後 吾々が陣取っている草原へ巡査が駆って来て 皆さん一寸御注意を申します。今夜此方面へ不逞鮮人が三百名襲来することになって居るそうである。又根岸刑務所の囚人一千余名を開放した これ等が社会主義者と結託して放火強奪強姦井水に投毒等をする。（略）十六才以上六十才以下の男子は武装して警戒をしてください。（略）午後4時過ぎ向ふの山上で喊声が起こった。一同が振り向ひて見ると白服を着た者が幾十人が抜刀して沢山な人を追いかけている。其を見た者は異口同音に 不逞鮮人来襲だ 白服は日本の青年団だと騒ぐ。（略）各町の青年団、衛生組合の人々が腕に赤布を巻き腰に伝家の宝刀を佩び或は竹槍 ピストル 獵銃 その他鉄の棒など持って避難地の草原に集合した。（略）夜の10時過頃から各方面で銃声が聞へ始め提灯の火が幾つとなく野原を飛んでいる。折々、武装した青年の傳令が駆って来て「御注意を願います。只今あやしい者が数十名此の方面へ入った形跡があります。」等と入替り立替り報告してくる。此夜鮮人十七八名反町遊郭の裏で惨殺された。（八木熊次郎「関東大震災日記」 横浜開港資料館保管）

②地域で組織化

9月3日 本牧中学

不逞鮮人襲来の噂、…本牧中学は震災の厄を免れたるを以て鮮人は該校を目標として襲来するとか…本牧中学を中心として自警団を組織すべしと協議し、該校庭を以て在郷軍人団及青年団の本部と定め、箕輪下青年集合して自警団を組織するに至り…（「遭難手記」 斎藤竹松）

9月2日 夕暮れ 水道貯水地（ママ）の丘

恐るべき鮮人襲来の噂とともに夕暮れが来た。水道貯水池の丘に立った一人の男が「男のある家では、一人ずつ出て下さァい…」と怒鳴ってる。聴てその傍の空地へは、大勢の男が、

手に手に何かの武器を持って集まって行った。それは軍隊でもあるように何個小隊かに分かれた。そして此の丘へ登る道筋の要所々々を堅めることになった。或るものは猟銃を携えていた。或るものは日本刀を背負った。また或るものは金剛杖の先へ斧を縛りつけた。（「横浜市震災誌」「遭難とその前後」西河春海）

③巡査と囚人と自警団が一緒になって虐殺

巡査と囚人と自警団が 一緒になって殺人

死体は全部火中に投じた 横浜の暴行事件発覚

9月2日3日の両日昼夜に亘って横浜市市中村町中村橋派出所付近を中心として根岸刑務所を解放された囚人廿余名と同町自警団が合体し〇〇十余名を殺害し遂には同所を通行した避難民や各地から来た見舞人十名を殺し所持の金品を奪った上死体は或は針金で両手両足を縛って大岡川へ投込み或は火炎の中へ投げ焼却して犯跡を隠蔽せんとしたが奇怪なのは某署の警官数名も制服帽でこれに加はり帯剣を引抜いて傷害せしめたといふ噂で被害者中には鶴見町から見舞に来た二名の外元自治クラブ書記吉野某も無惨の死を遂げてゐる。（報知新聞 1923.10.17）

④自警団の虐殺

横浜地方裁判所検事局 坂元検事戸部署で調査をする

保土ヶ谷、久保山辺でやられたのは多く戸塚辺の鉄道工事に雇われてゐたもので2日正午頃例の山口正憲一派のものが「鮮人三百名が襲撃してくる」との流言を放ったため久保山や其の附近に避難したものは自警団を組織し全部竹槍や日本刀を持って警戒し一方久保町愛友青年会を初め在郷軍人会員は第一中学校の銃剣を持ちだして戦闘準備をととのへ保土ヶ谷の自警団と連絡をとって三十余名の鮮人を包囲攻撃し何れも重傷を負わせ内十名ほどは保土ヶ谷鉄道線路や久保山の山林内で死体となってうづめ、また池中に沈められた。…鮮人に対する警戒は十日ごろまでつづき、二日から一週間は深夜でもピストルの音が絶えなかった。…（東京日日新聞 1923.10.21）

⑤震災前から組織されている自衛団

横浜の場合、初期の殺害行動に民衆がかかわった事実は確かであるし、自警団により多くの朝鮮人が虐殺されています。この自警団は、確かに震災当時流言を警察が吹き散らしながら組織したのもあるでしょう。当時県警察高等課長の西坂勝人は、「一夜にして生まれた自警団」とか「市部においてはその母体となった在郷軍人、消防団、青年団などの組織が全く解体状態となっており、これといった指導者もいなかった。この弱くなっている組織のなかへ、博徒、顔役、土工、暴力青年などが入り込み、その中の腕力、弁舌がすぐれた者が、自然指揮をとるようになった。」と言っていますが、震災以前から警察の指導のもと自衛団等の名前で活動している地域もありました。

横浜の場合、虐殺の初期段階から、民衆が朝鮮人の虐殺に走っていますが、これは震災以前から警察の指導により自警団を組織し、その自警団の一人ひとりが警察官としての自覚を持って行動し、地域の犯罪に対処しようとしていました。地域の火災、盗難、治安対策、この治安対策の主なものが朝鮮人であり、社会主義者であったのです。

この様な民衆の組織化を民衆警察と呼び、主導したのは、内務省警保局警務課長を務めた松井茂である。彼は、米騒動で青年団の多くが、騒動側に立って行動をしたことに対して民衆の組織化の

必要性を感じ、全国に「自衛団」「警察の民衆化」を唱え主導していたのです。西坂勝人は藤沢警察署の署長をしている時、既に地域に組織していました。

自衛団には、それぞれ組織のルールがあります。横浜の戸塚町の自衛団組織の規約が残っています。

- 一、火災盗難の予防匪徒の警戒をなすを目的とす
- 二、本団は戸塚町在住青年団、在郷軍人、その他区長の選抜したる有志を以て組織す
- 三、団員は棍棒その他護身用具を携帯すること
- 四、本団の団長一名副団長二名を置き警察署の指導をうけるものとす
- 五、本団を三部に分つ（略）各部に部長副部長を置き団員を指揮せしむ
- 六、団員の勤務は午後六時より午前五時までとし二時間更迭に一部づつ勤務に服し他は停車場前広場に休憩するものとす

自衛のため上から意図的に組織されていることが分かります。正に警察の火災、盗難、治安対策の直接的直属組織としてつくられています。

また、「団員は棍棒その他護身用具を携帯」と日常的に武器になるものを所持することが認められている。

このように自警団は、警察の延長線上の組織であり、警察権力の指揮の下行動をとっていたのです。まさに国家責任を問うて当然です。しかし、多くの民衆が自警団に協力し虐殺に加担したことの責任はあります。民衆警察という組織を受け入れた事が、簡単に流言を信じてしまう意識構造につながってしまったのではないのでしょうか。



震災直後の自警団
（「関東大震災と横浜」横浜開港資料館所蔵）
注）「第4区の自衛団」の団旗が見える。

6 虚偽の事実の公のルートで全国へ

流言は、軍隊や政府によって拡大されていきました。そして、なにより全国的に拡大したのは、内務省警保局長から各地方長官宛に海軍の船橋送信所から送った流言です。

呉鎮守府副官宛打電
各地方長官宛

九月三日午前八時十五分了解
内務省警保局長 出

東京付近の震災を利用し、朝鮮人は各地に放火し不逞の目的を遂行せんとし、現に東京市内に於て爆弾を所持し石油を注ぎて放火するものあり、すでに東京府下には、一部戒厳令を施行したるが故に、各地に於て充分周密なる視察を加え、鮮人の行動に対しては厳密なる取締りを加へられたし

政府は、虚偽の事実を公のルートを使って全国にばらまいたのです。これを受けて各地では、通牒や通達で隅々まで流言を拡大しました。埼玉県は通牒で連絡しました。そして、朝鮮人狩り、朝鮮人虐殺に奔っていきました。

神奈川県には、三浦郡長名で各町村宛に配られた公文書が残っています。

「不逞鮮人」に対する自衛勧告の件通達

号外大正十二年九月三日三浦郡長

今回の災害を期として不逞鮮人往行し被害民に対し暴行をなすのみならず井水等に毒薬を投ずる事実有之候条特に御注意相成度追て本件に就ては伍人組等を活動せしめ自衛の途を講せしめられ度

このように各地に虚偽の事実を通達として伝えられ、自警団が確実に組織されていきました。

7 戒厳令発布

内田臨時内閣は、枢密院の諮詢を経ることなく、9月2日正午上奏、天皇の裁可を得て「東京市とその隣接の荏原郡、豊多摩郡、北豊島郡、南足立郡、南葛飾郡」に戒厳令を宣告、その後組閣を終えた山本内閣は9月3日「東京府全域、神奈川県」4日に「埼玉県、千葉県」に拡大した。

神奈川県は3日に発令されるが、実際は4日10時奥平少将の来着、発表により戒厳令発布を知り、各警察署に伝達しました。

8 隠蔽された虐殺

(1) 虚偽の事実を捏造する政府

政府も民衆も朝鮮人に関わる流言を広め虐殺を行いました。実際には流言のような「不逞鮮人」の集団はありませんでした。9月2日午後、第1師団は流言に基き、東京西南部方面に部隊を派遣しましたが、朝鮮人の集団は発見できませんでした。各地の警察も流言のような朝鮮人集団を見付けることが出来ませんでした。

横浜の鮮人に関する調査報告（神奈川県警備隊司令官 陸軍少将奥平俊蔵） 一部

九月一日夜、北方町に在住の鮮人15、6名の中、4名は倒壊家屋の物資を窃取の目的にて、侵入せしを、市民の発見するところとなり、警官及び在郷軍人などと協力これを逮捕し、殺害せりとの風評あるをもって、取り調べたところ、鮮人の行動を確実に認めたものなく、確認なし。

以後国家は自らが関わった流言や虐殺を終息させることに躍起になりました。

9月4日には、臨時震災救護事務局警備部は、自警団による検問、誰何など「権力的行動」や、武器携帯は禁止する決定をします。5日、山本権兵衛内閣は、内閣告諭を出し、朝鮮人に対する制

裁を禁じます。また、内務省警保局は、朝鮮人に関する流言を肯定した新聞報道は差し止めるよう命じました。しかし、いったん火のついた行動は、すぐ止むことは無かったのです。

5日には臨時震災救護事務局が警備部の会合（陸軍、海軍、内務省、警視庁、戒厳司令部の代表）が開かれ、朝鮮人の暴行があったこと、そしてその背後に朝鮮人、日本人社会主義者がいたという虚偽の事実のでっちあげを行ったのです。

そして10月20日朝鮮人虐殺関連報道解禁の日に合わせて、司法省から「朝鮮人の犯罪」が公表されました。その多くは、氏名、所在が不明で、根拠に乏しく、検挙された者の犯罪も窃盗などが中心で、「朝鮮人暴動」とは、ほど遠いものでした。

国家による虚偽の捏造は、虐殺の事実を掴むことを困難にしています。

（2）山口正憲の流言発生説は仕組まれたスケープゴート

「鮮人問題の協定」の筋書きの中で、クローズアップされたのが、横浜の立憲労働党山口正憲と「震災救護団」の活動でした。9月4日に東京から来た憲兵は、警察力を無視し、救護と云う美名のもとで過激な行動をする救護団を監視し10日に山口正憲とその一派を逮捕します。新聞には「日鮮人共謀の賊団捕らわれる、横浜市内で」（「東京日日新聞」1923.9.13）とのタイトルで報道された。その後も「虐殺掠奪頻々たりし流言蜚語をはなつた山口一派の悪逆行為」などと、山口の逮捕により、不逞鮮人と社会主義者の共謀の犯罪行為を結びつける情報操作が行われた。そして流言蜚語の発生源の一つが山口正憲であることを権力の意識的な操作で民衆に印象づけます。

司法省が出した「震災後における刑事事犯及之に関連する事項調査書」という秘密調査書がありますが、これによると横浜における流言の出所及伝播の状況について次のように述べている。

…立憲労働党総理山口正憲（当35年）は、9月1日午後4時頃同市中村町字平楽ノ原に於て避難民大会を開き避難民約一万人对し食料品掠奪に関する演説を為したる際鮮人が夜間内地人を襲撃して危害を加ふるの説あるを以て互に警戒せざるべからざる旨の演説を為した…

この調査では、山口正憲が「朝鮮人襲来」を煽ったと決定づけています。

一方壽警察署員の行動を見てみましょう。

午前5時頃、社会主義者らしきものが、中村町平楽原の原頭で、虚に乗り、掠奪すべき煽動演説をして居ると云ふ報告に接したので、直ちに巡査十数名を引率して現場に向かったが、途中で旗を持ち赤布を巻いた一団に出会ったので之を追い散らし、更に現場に行くと群集は已に解散した後であった、所謂社会主義者とは例の山口正憲のことで、能く調べて見ると、附近の罹災民を集め、食料自給の方法に関しての演説であったと云うことが判ったので、不逞の言動を為すべからざる様警告して引き上げた。（「大震災と警察」西坂勝人）

このように、壽署署長代理の出志久保品一警部は言っています。司法省の調査の「朝鮮人襲来」は煽ってない。しかし、平楽の原で演説した時間が異なります。1日の夕方なのか2日の早朝なのか、或いは両方やったのか判りません。

しかし、山口正憲と彼等の一派が流言の発生とは無関係であると云うことは、その後の裁判過程でも明らかになってきました。

裁判の公判廷で壽警察署の大谷武雄の証言から見てみると

2日の午前4時30分頃であった 平楽の原にテントを張り籐椅子を踏台にして一段高い処で、パナマ帽を冠り白シャツに白ズボンを穿った大兵肥満の青鬚の生えた男が、避難民一同に向って、此の際お互いの生命を保つには掠奪をする外はないと煽動的の宣伝をして居た。一同は之に共鳴して万歳々と連呼しているのを見たが、その男は後に山口正憲と判った。（「横浜貿易新報」1924.6）

裁判の中では、「朝鮮人襲来説」と山口とその一派の活動との関連は何もふれられてはいません。事件隠蔽の為のスケープゴートにされたのです。

裁判長は、主文の中で「他の者と共に病傷者の手当を為し通信の便宜を計り食料その他の物資の調達並に之が配給に従事したるが…」と述べ、山口正憲に対しては、懲役2年、執行猶予3年の判決でありました。

山口正憲は、1920年横浜沖土同盟の結成に努力し、発会式も兼ねて5月1日に「万国労働祭」（メーデー）を勝ち取り、沖仲仕の労働条件改善闘争や普選運動等にかかわっていました。山口は当時の社会主義者たちからは「右翼ボス」と見られていたようです。震災時には、「震災救護団」を組織し、食料の調達、分配など米騒動の経験を生かして活動し、その他、傷病者の救護活動、通信、郵便活動など多方面での組織的な活動をしていました。

9 慰霊はどのようにおこなわれたか

(1) 宝生寺での追悼と日朝労働者の虐殺抗議集会

横浜市南区にある宝生寺では、1924年から毎年虐殺された朝鮮人の法要が営まれています。当初は、神奈川県下在住朝鮮人団が主催して「横死朝鮮人追悼会」として開催されました。中心で活動したのは、李誠七でした。クリスチャンである李誠七は1924年に在日朝鮮人の救済などを掲げ「愛隣園」を組織しながら、虐殺一周忌の法要をする寺院を探していました。あちこちの寺院で断られましたが、宝生寺が快く受け入れてくれたそうです。

1924年9月2日付の「横浜貿易新報」の記事によると、この追悼会には神奈川県知事代理、横浜市長代理、壽警察署長などの官憲も列席しています。また「当市の官民側に於いてもこの催しに多大の援助を与えている」と言っています。援助とはどんなことなのかは、分かりませんが、後の神奈川県の「内鮮融和」路線を明確にした方向へ取り込んでいきたいということなののでしょうか。その後、李誠七が亡くなるまで、宝生寺と愛隣園李誠七によって法要は毎年続き、李誠七没後は、在日大韓民国居留民団神奈川県地方本部が中心となって営まれています。

寺には、李誠七が作った位牌があります。表面は「大正十二年九月二日 虐殺韓国人諸霊位」裏面には、大正十三年九月一日造位 一千九百四十六年九月一日改造 施主 愛隣園 李誠七」とな

っています。

李誠七は、震災後横浜の朝鮮人たちで相互扶助の団体「愛護会」を組織しその会長に推されました。しかし活動からはだんだん距離をおき1926年神奈川県に内鮮協会が設立されると社会事業家、宗教家として朝鮮人評議委員になりました。

一方、労働運動が活発化していくなか、朝鮮人の労働組合「横浜朝鮮労働会」が組織され、虐殺朝鮮人の追悼が、重要な闘いの課題として取り組まれました。

1925年9月5日の3周記念日には、朝鮮同胞追悼会を戸部倶楽部で行います。朝鮮人60名、日本人側は横浜自由労働者組合員山上房吉外10余名参加します。当日会場に「憤悼震災当時被虐殺五千之我同胞」「嗚呼震災当時被虐殺我同胞半島万諸霊位」「以生残同胞之憤涙弔被殺同胞」の横断幕が掲げられるとすぐさま警官から撤去の命がでしたが、それにも屈せず金天海が演説を始めました。しかし、警官の激しい命令と金天海と他2名の拘束で遂に追悼会の解散を余儀なくさせられました。

しかし朝鮮人労働者と日本人労働者が結集し協議し、翌日同じ場所で警官の弾圧に屈せず、より多く朝鮮人80名、自由労働組合、横浜印刷工組合など労働者も参加し120名を結集し「震災惨死者追悼会」をやり抜きました。

1926年9月2日に在日本朝鮮労働総同盟横浜朝鮮合同労働会（横浜朝鮮合同労働会の後身）は、追悼会を開催します。朝鮮人140名、日本人労働者20名が参加します。

1927年には、神奈川朝鮮労働組合主催、東京・横浜の無産団体の後援で横浜山下町「中華和親劇場で「震災4周年追悼会」が開かれます。中国国民党支部から長文の追悼文が寄せられました。

1928年在日本朝鮮労働総同盟神奈川朝鮮労働組合主催で、「関東大震災虐殺事件第5周年追悼集会」を横浜長者館で開催しました。神奈川県警は80名を出動させ会場内外を警戒させ、横須賀、東京から出席しようとした労働者を検束、友誼団体からの檄文を全部押収、開会の冒頭に解散を命じ、本部役員28名を検束しました。

その後、厳しい時代に抗議すら出来なくなってしまったのでしょうか。

終わりに

「関東大震災時朝鮮人虐殺90年神奈川実行委員会」は、90年の取り組みを終えましたが、継続して取り組みをしようと言う事になり、会名の90年をとって「関東大震災時朝鮮人虐殺の事実を知り追悼する神奈川実行委員会」になりました。95年、100年を見据えて取り組もうと会を進めています。

集まってくる会員は、今の時代のレイシズムに危機感を感じ、われわれ自身が、未来を見据えるために学び、つながり、伝えていこうと考えています。

関東大震災時の朝鮮人虐殺は、日本の植民地支配の中に位置づけて考えなくてはなりません。日本帝国主義権力は植民地支配に抵抗する独立運動に対しては徹底的な弾圧を加えました。3.1運動に対する憲兵、軍隊のあくなき虐殺、放火、それは朝鮮半島から中国地方や沿海州にシベリアに至るまで追いかけて弾圧する、火種を残さないやり方です。まさにこの連続行為が関東大震災時の

資料 1
在日本関東地方罹災朝鮮同胞慰問班の朝鮮人虐殺最終調査報告

神奈川県		
神奈川県浅野造船所	48	死体を発見した数
神奈川県警察署	3	
程谷（保土ヶ谷）	31	
井戸谷（井土ヶ谷）	30	
根岸町	35	
土方橋から八幡橋まで	103	
中村町	2	
本牧	32	
山手町埋地	1	
御殿町付近	40	
山手本町警察署立野派出所	2	
若尾別荘	10	
新子安町	10	
子安町から神奈川停車場まで	150	
神奈川鉄橋（ママ）	500	
東海道茅崎停車場前	2	
久良岐郡金沢村	12	
鶴見付近	7	
川崎	4	
久保町	30	
戸部	30	
津間町（浅間町）	40	
水戸（ママ）一鴨山（ママ）	30	
以上小計	(1,152)	
神奈川県下	1,795	死体を発見出来なかった数
神奈川県下	1,052	上記第1次調査を終了した11月25日また各府県から寄せられた報告
合計	3,999	
総合計	6,661	

注）表は「関東大震災時の朝鮮人虐殺」山田昭次より。

朝鮮人虐殺であると考えます。子どもも大人も「まるで戦争のようであった」と言っていますが、朝鮮人に対する日本の侵略政策が国内に向けて発動されたものと考えます。関東大震災時朝鮮人虐殺はジェノサイドです。そういう意味では、世界史の中で見ていく必要があります。

日本政府は、朝鮮人虐殺の事実を隠蔽し、真相解明に何等努力することをしないばかりか妨害をしてきました。被害者やその家族に対しても謝罪して来ませんでした。形式ばかりの自警団の裁判で責任をとったと言えるのでしょうか。このような事が二度と起こらないようにするためには、事実を明らかにし、責任をとること謝罪することが必要です。そのことが現在の差別排外主義に向き合うことにもなります。

日弁連は、2003年政府に対して、責任を認め謝罪すること、虐殺の真相を調査し原因を明らかにせよと勧告を出しましたが、いまだに回答がありません。私たちも多くの人（日本、在日、韓国）とつながりながら、深く学び未来に向かって進みたいと思っています。

（やまもと・すみこ 関東大震災時朝鮮人虐殺の事実を知り追悼する神奈川実行委員会代表）